



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次

大学新体制	2
ACE創立記念	3
学園人事ほか	4-8
記念館オープン	9
この道一筋	10-11
入学・卒業式	12-13
愛名会だより	14

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
Tel. (0565) 48-8177

理事長、学長が年度始め式で学園百周年を踏まえ教職員の奮起、意識の共有力説

学園は四月一日付で大学等の組織変更、久々の事務局女性課長を含む人事異動を行ないました。また、四月二日の「年度始め式」で後藤淳理事長、後藤泰之学長が新年度方針など明らかにしました。学園の「篠原卯吉先生研究奨励助成金交付」と、大学の「平成二十三年度学長賞」の贈呈もありました。



年度始め式で「新しいものにチャレンジを」と呼びかける後藤淳理事長

組織変更では、大学事務局に高大連携推進室、国際交流室を新設、工学系事務室、情報科学系事務室は工学部事務室、情報科学部事務室に改称、経営学部事務室センターは経営学部事務室に改称、その下部組織の本山キャンパスは学務部直轄

とし、高校・中学関係では若水渉外部を廃止、若水事務部に統合しました。

人事では、鈴木達夫経営学部教授が大学副学長、坪井常世工学部教授が大学学生支援本部長、佐藤重明氏が大学事務局総合技術研究所事務長、久保芳孝氏が高校副校長兼中学副校長、粥川桂司氏が高校教頭、久々の事務局女性課長として山里静子さんが事務局システム管理部システム管理課長にそれぞれ就任しました。

年度始め式で理事長、学長、新年度への抱負表明



年度始め式で「大学の将来計画を取りまとめたい」と述べる学長

四月二日に八草キャンパス（豊田市八草町）の本棟等で新規採用者を含む各辞令交付式に続き、年度始め式を大学校舎内で行いました。出席した学園、大学の教職員を前に、後藤淳理事長が「学園のたどってきた百年の間、日本は戦争あり、戦後の混乱、復興、科

学技術の進歩等と激動の時代でした。その中で大学の教員の皆さんには、新しいものにチャレンジし資源のない日本に技術をしっかりと創って社会に還元してほしい」と強調。また、後藤泰之学長は「学園百周年に当たり、大学を学園中核設置校として教育、研究の一層の充実に努めたい。八年前の学長就任に際し皆さんに“危機感の共有”を申し上げたが、まさに今、その（危機の）真っ只中にいます。問題解決の方策を講じ大学の将来計画を取りまとめたい」と述べました。

また、大学も同席で中川覃夫経営学部教授、阿部圭一情報科学部客員教授、佐伯平二エクステンションセンター次長の三氏に研究、学生指導等で大学の発展に寄与したとして「平成二十三年度学長賞」を贈りました。後藤泰之学長が、阿部客員教授ら三氏に賞状と記念品を贈り、それぞれの大学に対する功績を称えまし

一刀講師に「篠原卯吉先生研究奨励助成金」交付



学園は同席で、一刀祐一基礎教育センター自然科学教室講師に「篠原卯吉先生研究奨励助成金」を交付しました。助成金対象となった一刀講師の研究は、「超

統計の観点における不均一異常拡散・生細胞の細胞質におけるウイルスの感染経路」。学長が、一刀講師に助成金交付書を手渡ししました。

【写真は、交付書を手にする一刀講師】

阿部客員教授ら3氏に「平成23年度学長賞」

また、大学も同席で中川覃夫経営学部教授、阿部圭一情報科学部客員教授、佐伯平二エクステンションセンター次長の三氏に研究、学生指導等で大学の発展に寄与したとして「平成二十三年度学長賞」を贈りました。後藤泰之学長が、阿部客員教授ら三氏に賞状と記念品を贈り、それぞれの大学に対する功績を称えまし



【写真は、前列右から阿部客員教授、学長、中川教授、佐伯エクステンションセンター次長】

学長再任含む大学新体制決まる
新副学長に鈴木経営学部教授



四月一日付の人事異動で愛知工業大学の新しい体制が決まりました。任期満了に伴う後藤泰之学長の再任(三期目)に加えて今回の異動では、小嶋憲三氏に代わり新しく副学長に就いた鈴木達夫経営学部教授の



ほか、学生支援本部長に坪井常世工学部教授、キャリアセンター長に渡辺修工学部教授、入試センター長に服部洋児経営学部教授、図書館長に吉賀憲夫基礎教育センター教授、高大連携推進室長(名電舎)に曾我部博之工学部教授、教学センター副センター長に高木淳基礎教育センター教授がそれぞれ就任しました。少子化、大学全入時代の到来に加え、景気低迷など本学を取り巻く状況は依然として厳しいといえます。新幹部の皆さんに本年度の舵取りが託されます。



【写真は、上右から鈴木副学長、坪井学生支援本部長、渡辺キャリアセンター長、服部入試センター長、吉賀図書館長、曾我部高大連携推進室長、高木教学センター副セン

後藤泰之学長を再任

学園は、3月末で任期満了の学長に後藤泰之現学長(54)を再任したと発表しました。3期目となる後藤泰之学長の任期は、4月1日から4年間。



学長は、昭和60年3月東海大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程を満了後、名古屋大工学部電気学科講師を経て平成5年4月本学工学部電気学科助教授となり平成12年10月から同教授、平成16年4月学長に就任。再任にあたり「学園の中核をなす本学の教育、研究の一層の充実を図り、学園の更なる発展に寄与しなければならないという重責を痛感しています。本学を取り巻く状況は厳しく、教職員一人ひとりが強い危機感を持って一丸となり立ち向かう必要があります」とのコメントを発表しました。

【写真は、学長に再任された後藤泰之学長】

愛工大ロボットミュージアムオープン

盛況だったロボットミュージアム会場



愛工大エクステンションセンターは学園創立百周年記念として長年蓄積してきた本学のロボット研究、

成果を広く社会に知ってもらう、さらに各地のイベントにも出向き、社会貢献を図ることを目的に八草キャンパスの同センター(12号館)内に開設しました。同ミュージアムは三月二十四日、オープンを記念してミュージアムや12号館内のみらい工房など会場にロボットを中心としたイベントを開催。古橋研究室(古橋秀夫電気学科教授)の鉄人プロジェクトはじめ奥川研究室(奥川雅之機械学科准教授)、中野研究室(中野寛之電気学科准教授)の

研究室、学生のロボット部、レスキュープロジェクト等で研究、開発した各種ロボットの展示、実演のほか、本学客員教授でからくり人形師・九代目玉屋庄兵衛さんによる実演や講演、ワークショップなどが行なわれました。オープンに先立ち開会式がロボットミュージアムで開かれ、稲恒慎二副学長と増岡錦也瀬戸市長がオープンを祝って挨拶しました。また、太田稔彦豊田市長も駆けつけ、後藤淳理理事長の案内で会場を見学。ミュージアムには大勢の親子連れらが詰めかけ、「レスキュークローラー」の操縦や保護者とカップ、ストローなどをを使った「がっきロボ」作りなどを楽しみました。



親子連れの参加でにぎやかだった紙コップなど材料にした「がっきロボ」作りの会場(みらい工房)



愛工大情報電子専門学校 創立二十周年迎えて式典



創立二十周年を迎えた愛工大情報電子専門学校（ACE）は四月十日、豊田市の豊田産業文化センターで創立記念式典と併せて平成二十四年度入学式を行い、創立記念と新入生を祝いました。

同式典は小ホールで厳粛に行われ、太田稔彦・豊田市長、河合芳弘・市議会議長、磯村義安・愛知県専修学校各種学校連合会長ら来賓のほか、学園、専門学校等から後藤淳理事長、後藤泰之愛工大学長、三輪博美



ACE入学式・創立記念式典で挨拶する後藤淳理事長



式辞を述べる井愛工大情報電子専門学校校長

学園事務局長ら大勢の関係者が出席。最初に入學式が行なわれ、井研治校長が六十人の新入生を前に「本校は創立以来、新技術の教育に専念。新入生の皆さんは最先端の知識、技術を習得し、取得可能な技能資格をすべて取るという目標を持って学習に励んでほしい」と式辞を述べました。続いて後藤淳理事長が「学園創立百周年の記念すべき年に本校の創立二十周年記念式典、入学式を挙行できることは大きな喜びです。この百年は日本にとり戦争、戦後の混乱、科学技術の進歩

と激動の時代でしたが、学園はその荒波を乗り越え、本校を含む四校を擁する工科系総合学園として成長を続けています」と挨拶。太田市長も「地元産業界で本校の果たしている役割や人材育成に、豊田市も大きな期待を寄せています」とお祝いの言葉を述べました。新入生代表の高名了君（高度情報処理学科）が、誓いの言葉を述べました。映像による「二十周年の歴史」を見た後、井校長が長年、講師を務めている杉村彰子先生、郷司有紀先生と古橋秀夫愛工大教授の三人（古橋教授は講義のため欠席）に感謝状を贈呈した後、全員で学園歌を斉唱し式典を締めくくりました。式典に続き、記念祝賀会が隣の多目的ホールで開かれ、出席者が創立二十周年を祝いました。



お祝いの言葉を述べる太田豊田市長

林学園参与らに理事長賞贈呈

―学園の発展に多大な功績―

学園は三月二十七日、学園の発展に多大な功績のあった林憲二学園参与・学園百周年事業準備室室長、若杉和彦学園百周年事業準備室参与、松沢勝義大学事務局参与・経営学系事務セン



後藤淳理事長（前列中央）と理事長受賞の林学園参与、松沢大学事務局参与、若杉学園百周年事業準備室参与、小田若水渉外部副部長（前列左から）

ター事務局長・八草キャンパス事務室事務局長、小田悠祐若水渉外部副部長の四人に「理事長賞」を贈り、長年の功労を称えました。理事長賞は「学園『理事長賞』に関する内規」に基づき、各部署から推薦された教職員の中から本学園の発展に多大の功績があった人に贈呈。

授賞式は本部棟三階の理事長室で、後藤淳理事長、三輪博美事務局長、稲恒慎二、小嶋憲三両副学長、川出善晴財務部長、矢野敬典管理部長が出席して行われました。後藤淳理事長が林学園参与ら受賞者一人ひとりに賞状と記念品を手渡し「スポーツなど各分野で学園の声価を高めた功績は大きい。感謝しています」と祝辞を述べました。

これに対し、林参与ら各受賞者から「身に余る光栄です」、「ここまで勤められたのは理事長先生の叱咤激励があったからです」とお礼の言葉がありました。

学園は4月1日付で組織変更と人事異動を行いました。詳細は以下の通りです。(敬称は略)

平成24年4月1日付の組織変更と人事異動

◇人事関係

◆組織変更(4月1日実施)

<事務組織変更>

【大学事務局】

- ①高大連携推進室を新設する。
- ②国際交流室を新設する。
- ③工学系事務室、情報科学系事務室は工学部事務室、情報科学部事務室に改称する。
- ④経営学系事務センターは経営学部事務室に改称し、その下部組織の本山キャンパスは学務部直轄とする。

【高校・中学】

- ①若水渉外部は廃止(若水事務部に統合)する。

◆人事異動(4月1日付、退職・兼務解除は3月31日付)

(カッコ内は前職、「・」は兼務、組織名称の変更者、及び敬称は省略)

<任命>(継続・再任を除く)

(大学)

副学長	経営学部経営学科教授・大学院経営情報科学研究科長	鈴木 達夫
学生支援本部長	工学部建築学科教授	坪井 常世
図書館長	基礎教育センター教授	吉賀 憲夫
入試センター長	経営学部経営学科教授	服部 洋兒
キャリアセンター長	工学部機械学科教授	渡辺 修
高大連携推進室長	工学部建築学科教授	曾我部博之
教学センター副センター長	基礎教育センター教授	高木 淳

(高校)

副校長・中学副校長	大学学長	後藤 泰之
教頭(主事)		粥川 桂司
主事(教頭)		平田 俊之

(中学)

主事(教諭)		渡辺 真
--------	--	------

<新規採用>

(大学)

工学部電気学科教授	森 竜雄
工学部機械学科教授	佐藤 一雄
工学部建築学科教授	安井 秀夫
経営学部経営学科教授	坂本 孝司
情報科学部情報科学科教授	森本 正志
基礎教育センター教授	金田 行雄
基礎教育センター教授(客員教授)	松本伊瑛子
工学部応用化学科准教授	梶田 裕二
工学部機械学科講師	松井 良介

(高校)

副校長・中学副校長	久保 芳孝
教諭(常勤講師)	北川 祐介
教諭・中学教諭(常勤講師)	真田 浩二
教諭・中学教諭(常勤講師)	富田 耕平
教諭	田中 なみ
教諭	渡邊 績

(事務局)

システム管理部情報教育支援課事務職員	福田 雄斗
--------------------	-------

(大学事務局)

総合技術研究所事務長	佐藤 重明
教学センター教務課事務職員	高柳 収
(専門学校)	
事務部事務職員 (嘱託職員)	栗本 武司
(高校)	
技術職員 (嘱託技術職員)	伊藤 大助
<新規委嘱>	
(大学)	
都市環境学科客員教授	伊豆原浩二
都市環境学科客員教授 (特任教授)	長瀧 重義
総合技術研究所客員教授	椿 淳一郎
大学院工学研究科連携客員教授	福森 健三
地域防災研究センター客員准教授	廣内 大助
エクステンションセンター客員講師	西山 禎泰
(事務局)	
システム管理部情報教育支援課有期契約職員	石川 仁美
(大学事務局)	
入試センター嘱託職員	宇田 克巳
入試センター嘱託職員	清水 浩二
入試センター嘱託職員	原田 省吾
学務部工学部事務室 (機械学科) 有期契約職員	宮川 新菜
総合技術研究所 (耐震実験センター) 任期付助手	嶋口 儀之
<定年再雇用>	
(大学)	
工学部電気学科特任教授 (教授)	小嶋 憲三
基礎教育センター特任教授 (教授)	小栗 友一
(事務局)	
学園百周年事業準備室嘱託職員 (事務局参与・事務局学園百周年事業準備室長)	林 憲二
学園百周年事業準備室嘱託職員 (参与)	若杉 和彦
総務部広報課嘱託職員 (事務局総務部参事)	久保 康雄
(大学事務局)	
入試センター嘱託職員 (次長)	市川 繁富
キャリアセンター嘱託職員 (参事)	美頭甲子雄
総合技術研究所事務室嘱託職員 (事務長)	原田 建
(中学)	
若水事務部嘱託職員 (若水渉外部副部長)	小田 悠佑
<昇格> (所属変更及び兼務、兼務解除を含む)	
(大学)	
工学部電気学科教授 (准教授)	雪田 和人
工学部電気学科教授 (准教授)	津田 紀生
工学部応用化学科教授 (准教授)	手嶋 紀雄
工学部都市環境学科教授 (准教授)	鈴木 森晶
基礎教育センター教授 (准教授)	チャールス ケリー
基礎教育センター教授 (准教授)	川端 元子
工学部都市環境学科准教授 (講師)	山本 義幸
(事務局)	
総務部総務課長・広報課長 (総務部総務課主査・広報課主査)	石川 裕之
システム管理部システム管理課長 (主査)	山里 静子
総務部広報課主査 (係長)	中條 伸子
システム管理部情報教育支援課主査 (係長)	森島 映子
システム管理部情報教育支援課係長 (事務主任)	坂野 慎介
総務部総務課事務主任 (事務職員)	鬼頭 明

(大学事務局)

学務部経営学部事務長 (次長級) ・ 本山キャンパス事務長 (キャリアセンター課長)

入試センター入試広報課長 (主査)

学務部工学部主幹 (学務部工学系事務室 (機械学科) 主査)

教学センター教務課主幹 (学務部情報科学系事務室主査)

総合技術研究所事務室主幹 (主査)

図書課主幹 (主査)

教学センター教務課主査 (係長)

キャリアセンター主査 (係長)

学務部庶務課事務主任・学園企画推進室員 (事務職員・学園企画推進室員)

学務部助成課事務主任 (事務職員)

入試センター入試広報課事務主任 (事務職員)

学務部経営学部自由ヶ丘キャンパス事務室事務主任 (学務部経営学系事務センター自由ヶ丘
キャンパス事務室事務職員)

(高校)

若水事務局事務主任 (事務職員)

<所属変更> (職名変更及び兼務、兼務解除を含む)

(大学)

基礎教育センター教授 (経営学部経営学科教授)

基礎教育センター教授 (経営学部経営学科教授)

工学部電気学科准教授 (工学部機械学科准教授)

(事務局)

百周年事業準備室係長 (若水事務局係長)

財務部会計課有期契約職員 (大学事務局教学センター教務課有期契約職員)

(大学事務局)

学務部基礎教育センター事務長 (入試センター入試広報課長)

学務部情報科学部事務長 (学務部経営学系事務センター自由ヶ丘キャンパス事務長・本山キ
ャンパス事務長)

学務部本山キャンパス事務室主幹 (教学センター課長)

教学センター主幹 (学務部基礎教育センター事務室課長)

学務部工学部事務室主査 (総合技術研究所事務室 (エコ電力研究センター) 主査・学務部工
系事務室 (電気学科) 主査)

国際交流室主査 (教学センター教務課主査)

学務部情報科学部事務室主査 (学務部経営学系事務センター八草キャンパス事務室主査)

総合技術研究所事務室 (エコ電力研究センター) 係長・学務部工学部事務室 (電気学科) 係
長 (工学系事務室係長)

国際交流室事務主任 (教学センター教務課事務主任)

国際交流室有期契約職員 (教学センター教務課有期契約職員)

(高校)

若水事務局係長 (若水渉外部係長)

<兼務> (兼務解除を含む)

(事務局)

事務局長・システム管理部長・大学事務局長 (事務局長・大学事務局長)

秘書室長・大学事務局高大連携推進室課長 (事務局秘書室長)

(大学事務局)

学務部助成課長・庶務課長・国際交流室課長 (学務部助成課長・庶務課長・情報科学系事務
系事務室事務長)

入試センター次長・高大連携推進室次長 (入試センター次長)

<兼務解除>

(組織変更により廃止された部署の兼務解除、任期付職務、本務と兼務の入替えによる兼務解除は
省略)

(大学)

学長補佐の兼務を解く	経営学部経営学科教授・大学院経営情報科学研究科長	鈴木 達夫
学長補佐の兼務を解く	工学部応用化学科教授・大学院工学研究科長	酒井 忠雄
学長補佐の兼務を解く	工学部建築学科教授	坪井 常世
学長補佐の兼務を解く	工学部建築学科教授	曾我部博之
学長補佐の兼務を解く	工学部機械学科教授・国際交流室長	櫛田玄一郎
学生支援本部長の兼務を解く	工学部応用化学科教授・大学副学長	稲垣 慎二
キャリアセンター長の兼務を解く	工学部電気学科教授	村瀬 洋
入試センター長の兼務を解く	工学部建築学科教授	建部 謙治
教学センター副センター長の兼務を解く	情報科学部情報科学科教授	中村 栄治

(事務局)

総務部広報課長の兼務を解く	事務局次長・総務部長・大学事務局次長	後藤 尚之
総務部総務課長の兼務を解く	総務部次長	岩井 貞二
学園企画推進室員の兼務を解く	財務部次長	伊藤 忍
システム管理部システム管理課長の兼務を解く	システム管理部次長	山本 久雄

<定年退職>

(大学)

▽電気学科 小嶋憲三教授、久野和宏教授、新宮博康准教授▽建築学科 成瀬治興教授▽情報科学科 小池慎一教授、椎野努教授▽基礎教育センター 梶川忠教授、小栗友一教授

(高校)

樋口悦也教諭、遠藤喜一郎教諭、若尾輝夫教諭、犬飼由彦教諭

(中学)

小田悠祐若水渉外部副部長

(事務局)

林憲二事務局参与、若杉和彦学園百周年事業準備室参与、各務謙三システム管理部長、久保康雄総務部参事

(大学事務局)

松沢勝義事務局参与、市川繁富入試センター次長、美頭甲子雄キャリアセンター参事、原田建総合技術研究所事務長

<任期満了>

(大学)

都市環境学科都市環境学科 長瀧重義特任教授

<委嘱終了>

(大学)

機械学科 新垣勉客員教授▽応用化学科 富岡秀雄客員教授▽基礎教育センター 松本伊瑛子客員教授▽総合技術研究所 熊沢英博客員教授▽電気学科 大角良子嘱託職員▽総合技術研究所(耐震実験センター) 桶幸枝嘱託職員▽電気学科 須藤章夫嘱託技術職員▽機械学科 多治見巖嘱託技術職員▽建築学科 永田昇建築学科嘱託職員▽庶務課 木村義人嘱託職員▽入試センター 畦地耕司入試センター嘱託職員

(事務局)

管財課 酒井賢嘱託技術職員

平成23年度退職者辞令交付式

3月30日、八草キャンパスの本部棟内で学園、大学幹部らが出席して行われ、後藤淳理事長が21人(2人欠席)の退職者1人ひとりに、辞令と記念品を手渡し、「教職員一人ひとりにより、学園100年の各頁が刻まれてきました。長い間ご苦勞様でした」とねぎらいの言葉をかけ各部署での長年の功勞を称えました。

退職者を代表し小嶋憲三副学長が「個人的には学生時代も含むと50年以上愛工大にお世話になりました。100周年を機に大学、学園が世界に羽ばたき『学園、大学ここにあり』と目覚しい発展をされるよう願っています」と謝辞を述べました。



後藤淳理事長(前列左から5人目)、後藤泰之学長(同左端)を囲んでの記念写真を撮る退職者ら

【平成23年度決算の概要】

学校法人名古屋電気学園の平成23年度決算は5月30日の理事会と評議員会において決定、承認されました。その概要は、以下の通りです。

- ・「資金収支計算書（会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容と当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにしたもの）」の決算総額は、276億5千万円、「施設関係支出」には、若水キャンパス内に建設中の100周年記念館(仮称)に係る建設仮勘定支出が含まれています。
- ・「消費収支計算書（会計年度の消費収入と消費支出の内容と両者の均衡状態を明らかにし、経営状況を表すもの）」における「帰属収入合計（授業料、入学検定料、補助金など法人の負債とならない収入）」は、113億5千万円、「基本金組入額合計（教育研究の充実のために取得した固定資産の価格や将来の施設取得のための計画的な積立金な

ど）」を「帰属収入合計」から差し引いた「消費収入の部合計」は、99億円となりました。「消費支出の部」は、113億7千万円であり、「当年度消費支出超過額（「消費収入の部合計」から「消費支出の部合計」を減算した結果）」は14億7千万円、「前年度繰越消費支出超過額」18億7千万円と合算した後、「基本金取崩額（施設・設備の処分に伴う所得額の減額）」6億4千万円を減算した「翌年度繰越消費支出超過額」は、27億円となりました。

- ・「貸借対照表（年度末における資産、負債、基本金及び消費収支差額を把握し、財政状態を表すもの）」の「資産の部合計」は650億円、「負債の部合計」は、70億7千万円となりました。

詳しくは、名古屋電気学園ホームページの「事業報告・財務状況【名古屋電気学園—学園の構成—法人情報】」をご覧ください。

資金収支計算書（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで） (単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	8,855,788	人件費支出	6,415,225
手数料収入	295,675	教育研究経費支出	2,337,895
寄付金収入	123,074	管理経費支出	656,761
補助金収入	1,494,428	借入金等利息支出	20,363
資産運用収入	94,234	借入金等返済支出	340,642
資産売却収入	302,654	施設関係支出	1,812,754
事業収入	83,405	設備関係支出	443,856
雑収入	371,147	資産運用支出	1,850,000
前受金収入	1,634,451	その他の支出	410,124
その他の収入	2,252,034	資金支出調整勘定	△ 569,443
資金収入調整勘定	△ 2,083,111	次年度繰越支払資金	13,934,880
前年度繰越支払資金	14,229,278	支出の部合計	27,653,057
収入の部合計	27,653,057		

消費収支計算書（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで） (単位 千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金	8,855,788	人件費	6,296,338
手数料	295,675	教育研究経費	3,941,528
寄付金	150,702	管理経費	826,791
補助金	1,494,428	借入金等利息	20,363
資産運用収入	94,234	資産処分差額	282,784
資産売却差額	1,160	消費支出の部合計	11,367,804
事業収入	83,405	当年度消費支出超過額	1,471,265
雑収入	371,147	前年度繰越消費支出超過額	1,868,226
帰属収入合計	11,346,539	基本金取崩額	△ 641,941
基本金組入額合計	△ 1,450,000	翌年度繰越消費支出超過額	2,697,550
消費収入の部合計	9,896,539		

貸借対照表（平成24年3月31日） (単位 千円)

資産の部		負債、基本金、消費収支差額の部	
科目	決算	科目	決算
固定資産	50,357,763	固定負債	4,330,570
流動資産	14,621,803	流動負債	2,743,122
		負債の部合計	7,073,692
		基本金の部合計	60,603,424
		消費収支差額の部合計	△ 2,697,550
資産の部合計	64,979,566	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	64,979,566

「学園百周年記念館（仮称）」プレオープン

後藤淳理事長、教職員に『新しいものを自分たちで創り出すという気構えで活用してほしい』と、強調

記念館は鉄筋コンクリート五階建て、延べ床面積約六千八百平方メートル。建物は真ん中で南北に隔てる格好の吹き抜けを挟み、南北それぞれに様々な施設が設けられているのが特徴。

一階部分には、記念館のメインとなる「メモリアルギャラリー」が入ります。ここには、学園百年間の歴史に関わる貴重な品々、資料等を展示。その反対側の



学園百周年記念館のプレオープンで学園、高校、附属中学、建設関係者を前に挨拶する理事長



南側部分一、二階には、ものづくりの場となる「ものづくりエリア」が設けられ

ています。

一階には講演も出来るオープンラボをはじめエレクトロニクス、電子制御、機械等の実習、工作室。二階にも一階と同じオープンラボのほか、異なる実習等の授業を同時に行なえる多目的室や化学実験室、理科室や音楽室が入ります。

三階から上が体育館と記念ホール



で、北側の記念ホールの上で吹奏楽部パート練習室等です。南側の屋上



にはバスケットボールなど出来るも体育施設が設けられています。五月上旬に

かけ吹奏楽部が取り壊される北隣りの実習館（五、四階建て）から移り、ものづくりエリアにも実習や工作室で使われる機器、装置や工作道具が入り、各授業も行なわれています。

これを受けて十一月の正式オープンに先立ち、プレ



オープンセレモニーが五月十五日、記念館一階のオープンラボで学園、附属中学の



ほか建設関係者が出席して行なわれました。後藤淳理事長が挨拶し、学園の百年の変遷に

触れながら、「学園の歴史をしっかりと認識し、皆さんが自分たちで新しいものを創り出すという気構えで記念館を活用してほしい」と力説しました。建設会社から各階の施設等の説明があった後、理事長、後藤泰之学長ら出席者が一階から順に各階を見学しました。配管の種類が人目で分かるようカラフルな色で分けられた天井など随所に見られるき



め細かい工夫のほか演奏環境に配慮された吹奏楽のパート練習室、様々な機器で充実した

実習館の話題

実習館でビル火災想定訓練

千種消防署が六月二、三日、記念館の建設で取り壊される実習館を使ってビル火災等の想定訓練を実施しました。訓練は、学園が解体中の実習館を訓練用に使わせてほしいという消防署の要請を受けて実現。扉の



切斷Ⅱ写真Ⅱ等の訓練が本番さながらに繰り返されました。



記念館（左が完成パース図）の写真は上右が1階「ものづくりエリア」での授業、左で中右が3階記念ホール、左が空調等の導線が一目で分かるカラフルな配管。下右が3階体育館、左が2階音楽室。

「ものづくりエリア」等、これまでの施設を大きく上回る内容に出席者から驚きの声が上がっていました。



**国際大ダム会議で
特別功績賞を受賞**
**大根義男・名誉
教授、総長補佐**

**功績賞
等輝く**

賞（論文）等を受賞し、本学の声価を高めました。

本学の教員が所属する学会等から特別功績賞、学会

愛工大



それぞれ
の分野で目
覚しい業績
や成果を挙
げた学園各
設置校の教
員、学生を
紹介。

大根義男名誉教授は六月六日、国立京都国際会館で開かれた「国際大ダム会議（ICOLD）」年次例会・大会で日本人として三人目となる特別功績賞を受賞しました。

今回の受賞理由は、大根名誉教授が環境や耐震性等に優れたダム建設の施工法等を確立、世界に広めた功績等によるものです。国際大ダム会議の開会式で、表彰された大根名誉教授は夫人の公子さんと壇上に上がり、ジア・ジンシェン総裁からメダルと盾を贈られました。「今回の受賞は、愛知工業大学と妻のおかげです」と挨拶し、大きな拍手を受けました。

国際大ダム会議は一九二八年、ダム関係土木構造物（水力発電所を含む）の設計、施工、保守等に関する技術について委員会を設置し、調査研究を行うことを目的に設立されました。日本はその三年後に同会議日本国内委員会として加盟したのが始まり。日本での大会開催は初めて。世界九十の国・地域から千五百人を超える技術者、研究者が

出席しました。

大根名誉教授は、中央大工学部土木工学科卒で、愛知用水公団（現独立行政法人水資源機構）を経て本学工学部教授を長年務めました。専門分野はダム工学、地盤工学、施工学で、フィリダムの耐震設計に関する研究等で知られています。



富士山の写真集自費出版

また、富士山の保全・砂防事業推進に關連する防衛省（旧防衛庁）の技術委員

会の委員長を長年務め、富士山を中心とした自然美を紹介したいと、四季折々の富士山を撮り続けている小長井正道氏（静岡県職員）の作品を編集した「富士山の四季・写真集」を今年五月、自費出版しました。

【写真上は、夫人の公子さんと国際大ダム会議から贈られたメダルと盾を手にする大根名誉教授と名古屋市内の自宅で。右は、「写真集」】

**日本医療機器学会
賞（論文）受賞**

水野光国教授



医用工学を専門分野とする水野光国機械学科教授が六月七日、札幌市で開催された「第87回日本医療機器学会大会」で平成二十三年度論文賞を受賞しました。

受賞した論文は水野教授が主になつた「滞留回避機能を付与したカプセル内視鏡の開発―滞留回避機構の操縦特性」。昨年八月の学会誌「医療機器学第八十一巻第四号」に掲載された同論文が、論文部門で優秀として受賞が決まりました。

現在、消化管検査等を目的にした内視鏡検査では、チューブ式内視鏡に加え、イスラエルで開発された口から飲み込み、写真撮影し

自然排出のできる小型カメラ内臓のカプセル内視鏡が外国で普及。国内でも五年前にイスラエル製小腸用カプセル内視鏡が承認されました。

同カプセルは自走できないため長時間、体内に留まるとバッテリー切れや、狭い所ではさまり動けなくなるケースもあり、完全とは言えません。そこで、水野教授は自走や滞留回避機能を備えたカプセル内視鏡の研究、開発に取り組み、どの方向へも自在に動けるようにカプセル本体を前後二分割し、その表面に互いに逆方向となるらせん構造を施した自走式カプセル内視鏡を開発しました。同カプセルだと必要な患部のきめ細かい写真撮影の他、自在に動けるため滞留の不安もありません。

水野教授の研究グループは論文にまとめ、日本医療機器学会誌に投稿。査読のうえ昨年八月の「医療機器学第八十一巻第四号」に掲載されました。

【写真は、日本医療機器学会論文賞の賞状を手にする水野教授】

日本機械学会賞
(論文)受賞
江上泰広准教授



江上泰広機械学科准教授の共著論文が社団法人日本機械学会の「2011年度日本機械学会賞(論文)」を受賞。江上准教授の同賞(論文)受賞は、2006年に次いで二回目となります。

日本機械学会賞を受賞した共著論文は、江上准教授を含む五人による「感圧塗料を用いた高速回転ディスク表面の圧力分布計測」です。パソコン等で広く利用されているハードディスクドライブは、高速で回転させると振動を誘発することが知られておりハードディスク上の圧力分布を計測することが振動要因解析のため重要といえます。江上准

教授のグループは、ディスクを傷つけず表面上に感圧塗料と呼ばれる特殊塗料をスプレーで拭きつけ、微小な圧力分布を計測することに初めて成功しました。この研究論文をまとめて昨年四月、日本機械学科論文集に投稿。論文は査読のうえ同年十一月発行の論文集76巻771号に掲載されました。さらに機械学会賞に値する優れた論文として他の十五件の論文と合わせて四月二十日、東京で開催された日本機械学会2011年度(第89期)定時社員総会で表彰されました。

【写真は、日本機械学会賞の賞状とメダルを手にする江上准教授】

IEEE技術功績
受賞
中川覃夫教授



中川覃夫経営学科教授がIEEE・日本信頼性協会から、「IEEE技術功績賞」を受賞しました。信頼性・保全性理論は、第二次世界戦争中に米国で主に軍用機の故障防止を目的等に生まれた理論で、人間や機械を含む全てのものはいずれ故障することから前もって故障等に備え予防保全を講じれば、「丈夫で長持ち」という理論です。中川教授は信頼性・保全理論にいち早く着目し、四十一年前から研究に取り組んできました。中でも「信頼性・保全性に関する基礎数理に関する研究・教育」の研究テーマで、「確率過程論を取り入れた最適保全方略の研究、計算機システム」の信頼性解析等で目覚ましい成果をあげ、尾崎俊治・広島大学名誉教授とともに日本の信頼性・保全性理論研究を世界のトップレベルまで押し上げました。また、若手研究者の育成にも尽力し、大学や企業で活躍している卒業生と「名古屋計算機信頼性研究会」をつくり積極的に研究活動を展開し



卓球部 吉村真晴選手(経営学科一年)が四月八日、中国・広州で行なわれた第25回アジアカップ卓球大会男子シングルスで日本代表として二十

卓球部

大学男子が日本リーグ前期、吉村選手がアジアカップで各準優勝!

吉村真晴選手(経営学科一年)が四月八日、中国・広州で行なわれた第25回アジアカップ卓球大会男子シングルスで日本代表として二十

ています。これまでに学術雑誌等に発表した研究論文は約二百本に上ります。こうした業績が認められる「IEEE・日本信頼性協会の「IEEE技術功績賞」受賞となりました。表彰と受賞記念講演会が六月十六日、東京の首都大学秋葉原サテライトキャンパスで行なわれ、賞状授与の後、記念講演を行ないました。IEEEは、アメリカを本部とする電気・電子技術の学会です。【写真は、技術功績賞を手にする中川教授】



附中・木造選手が世界大会(附中一年)で二

真IIが七月十一日から中国で開催された「アジアジュニア&カデット卓球選手権大会」に日本代表カデット選手として出場しました。

附中・木造選手(附中一年)で二

に本学・鉾徳館でのホームマッチでリコーを3・1で下したII写真右、ダブルスの森本耕平・吉村ペアII勢いで、東京大会(六月二十七日〜七月一日)も強豪の東京アートに1敗しただけで準優勝に輝きました。



男子は2012日本リーグ前期男子1部で準優勝を果たしました。六月二十三日

三年ぶりに決勝に進出し、世界ランキング4位の許昕選手(中国)と対戦。試合は0-4で破れ、惜しくも準優勝でしたII写真上左。また、



学園設置校で新たな旅立ちと出会いの時



愛知工業大学、愛工大名電高校、愛工大附属中学校、愛工大情報電子専門学校



華やかに入学式

愛工大

◎：四月一日、八草キャンパスの鉀徳館



式場を埋めた新生と保護者

目を引いたのが観客席を埋めた保護者。席に座れず

出席は年々、増加傾向にあり、このままの勢いだと式場内に入りきれない日が来るのではないかと、思う

式典は、恒例の本学管弦楽団による「祝典行進曲」の演奏で始まり、後藤泰之

「創造と人間性」という教育のテーマの下、教職員一同、皆さんを全力でサポートします」の力強い式辞に



入学式で新生、保護者を前に「教職員一同、皆さんを全力でサポートします」と力強く述べる後藤泰之学長

開設、間もなく設立許可を得て名古屋電気学校に改称し本年、百年を数えるまで

愛工大名電高校

愛工大附属中学校

◎：桜の花が咲きそろった四月六日、高校、附中の入学式が



科学技術科など合わせて599人の新生を迎え華やかに行なわれた高校入学式

それを達成するため誠実・勤勉の姿勢を持ち、何をすべきか決断、実行していただく」と激励。後藤

旅立ち — 思い出を胸に詰め卒業式 —



「社会の発展に寄与できる人に」と励ます学長

愛工大

◎：三月二十三日、八草キャンパス内の鉦徳館で行われました。平成二十三年度の卒業生は、工学部、経営情報科学部、大学院修了者で博士前期課程と博士後期課程を修了して論文審査に合格、博士となった合わせて千二百六十五人。式典は大勢の保護者、来賓の見守る中、管弦楽団の演奏による「祝典行進曲」が始まりました。後藤泰之学長が学部の代表に卒業証書・学位記等を授与した後、「昨年三月の地震、津波で尊い人命が失われ、原発事故によって科学技術に対する『安全・安心』が大きく揺らぎ社会が大きな岐路に直面しています。新たな局面を切り拓くためには、本学の教



「夢の実現を」と呼びかける理事長

育モットーである『創造と人間性』がひとつの手がかりになるのではと思っております。皆さんもこの『創造と人間性』を胸に研鑽努力を重ねられ、社会の発展に寄与されることを期待しています」とはなむけの言葉を贈り、後藤淳理事長・総長は「本年、創立百周年を迎える本学の母体である学園は、本学など四校を擁する工科系総合学園として発展を続けています。その歴史は学園に携わってきた大勢の人により刻まれてきました。皆さんもその一員であり今後、困難に直面した時、ここで培った知識、技術、そして『ものづくりの精神』を力に夢の実現に向かって頑張ってください」と祝福しました。

愛工大名電高校

三月一日の卒業式当日、後輩からの「サプライズ」の贈り物があり、卒業生にとり忘れられない思い出の日となりました。



「ウィキッド」の主演キャストが劇中歌を披露

◎：それは卒業式が閉幕した時でした。壇上に森野香穂生徒会長が上がり「お世話になった先輩に感謝と激励の気持ちをこめて、だめもとでお願いした劇団四季の主役キャストが歌を披露します」と挨拶。再び幕が開いて、新名古屋ミュージカル劇場で公演中のミュージカル「ウィキッド」の主役キャスト、良い魔女・グリンダ役の本木貴永さんと悪い魔女・エルファバ役の岡村美南さんの二人が登場。アメリカで今や卒業ソングで知られる劇中歌「あ

愛工大附属中学校



式辞を述べる佐藤校長

◎：卒業式は三月十六日、喬徳館で行われ、佐藤校長が百四十一人に卒業証書を授与し「新

なたを忘れない」を熱唱、卒業生を感動させました。式は、喬徳館で行われ、佐藤校長が六百十九人に卒業証書を授与した後、「二十一世紀は皆さんの時代です。しっかりと実力をつけ、その分野でのリーダーになってください」と祝辞を述べたのに続き、後藤淳理事長が「学園は本年、創立百年を数えます。皆さんもその誇りと自信を持って、それぞれの夢をつかんでください」と励ましました。卒業生を代表して梅田千夏さんが、「私たちは愛工大名電高の卒業生であることを誇りに、新しい一步を踏み出します」と力強く答辞を読み上げました。

愛工大情報電子専門学校



式辞を述べる井校長

◎：式は三月十五日、豊田市の同校で行われ、六十六人が学び舎を巣立っていきましました。井研治校長が「大きな自信と不屈の粘り強さをもち更なる研さんを積み、大いに精進してください」と式辞を述べ、後藤淳理事長が「皆さんは本年、百周年を迎えた学園の一員という誇りを持って困難に立ち向かい、夢を実現してください」と激励。卒業生を代表し、岩科優起君(CAD・CAM学科)が謝辞を述べました。

たな自己形成に全力で取り組んでほしい」と式辞を述べました。この後、後藤淳理事長が「さらに勉学に励み、将来の日本の力になってください」と励まし、可児美月さんが答辞を読み、式典を終えました。

愛名会だより



大勢の会員が出席し、盛り上がった愛名会総会

総会では神尾隆会長、名誉会長の後藤淳理事長の挨拶に続き、総会前に開かれた理事会で承認された平成二十四年度事業計画、予算及び役員改選等の報告がありました。役員改選で副会長の寺田修、理事の堀籠登喜雄、村瀬洋、顧問の箕浦

学園の後援組織・学校法人名古屋電気学園愛名会は五月十一日、名古屋市中区の名古屋東急ホテルで平成二十四年度総会・講演会を開催。講演は昨年の東日本大震災以降、注目を集めている電力事情について中部電力社長が語りました。



今夏の電力需給予測などを分かりやすく話す水野中電社長

宗吉の四氏が転任等で退任し新たに副会長に浪岡滋、理事に鈴木利幸、渡辺修、川脇喜久雄、後藤尚之の五氏が選任されました。講演会では、中部電力の水野明久代表取締役社長が「電気事業の歴史とこれからのエネルギーのあり方」と題して講演。冒頭、学園に触れ「これまで企業の第一線で活躍する人材を数多く輩出し、中部地方、ひいては日本の発展に大きく貢献してきたことに深く敬意を表します」と場を盛り上げた後、電気事業が過去から現在に至る中でどのような課題をかせられ、それにどう取り組んできたかを、スライドを使って説明。現在、停止中の浜岡原子力発電所（静岡県）の安全対策の構築も含めて、注目される今年夏の電力需給予測について中電の見通し等を分かりやすく話しました。

春のセンバツ 涙呑む

愛工大名電高野球部は3月21日に甲子園球場で開幕した「第84回選抜高校野球大会」に7年ぶり9回目の出場を果たし、熱戦を展開。1、2回戦は順当に勝ち進み、準決勝進出をかけた試合で昨秋の神宮大会決勝と同じ光星学院（青森）と対戦。試合は2-5で破れ、リベンジとはなりませんでした。アルプス応援席には毎試合、生徒、教職員、OBらが詰めかけ応援を繰り広げました＝写真右。生徒の応援団に対し全国制覇を成し遂げた前回の平成17年に続いて「応援団賞・優秀賞」に輝き、野球部の甲子園出場に花を添えました。



東日本大震災から間もなく1年となる3月8日、名古屋市東区のオアシス21「銀河の広場」で福島県の子どもらを励まそうと開かれた「復興のこいのぼりin名古屋」に出演しました。長久手市在住の書家が、福島の子どもらを応援する象徴として名古屋市内の子どもの作った千匹の“こいのぼり”を披露する目的で開催。趣旨に賛同した吹奏楽部が「自分たちのできることで」と演奏を買って出ました。伊藤宏樹顧問の指揮で、部員が応援メッセージにふさわしい元気いっぱいの曲目を次々に演奏、観客から大きな拍手を受けました＝写真左。後藤淳理事長も駆けつけ激励の寄せ書きに参加していました。

福島の子どもにエール 一名電高吹奏楽部一



“学園百周年イヤ〜”にふさわしく大学など各設置校の教員、クラブ等の活躍が目立ちます▼普段、耳にしない研究等での功績が認められた教員らも少なくありません▼「この道一筋」で取り上げました大根義男名誉教授・総長補佐の国際大ダム会議からの特別功績賞授与などです▼受賞理由の多くは、長年にわたる研究成果が広く認められたとあります▼一口に長年といっても半世紀近くに及ぶ研究もあり、頭が下がります▼学園も百年の積み重ねを経て、今があります▼その苦労に対し表彰されてもおおかしくありません▼かつて天皇・皇后両陛下が記者会見で、それぞれにお点をつけるとしたらの問いかけに「努力賞を」「お点でなく感謝状を」と、ほのぼのとするお答えをしたことを覚えていきます▼私も「今の学園に差し上げるとしたら何の賞状を」と問われたら、「人づくり大賞」と迷わず答えるでしょう。(久)

編集後記